

(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

#### II.家族との支え合い

#### III.地域との支え合い

#### IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 5 年 2 月 16 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 13名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	1名	

※事業所記入

事業所番号	3890600327
事業所名	グループホームあかね
(ユニット名)	1Fユニット
記入者(管理者)	
氏名	一色 千子(杉田 千恵)
自己評価作成日	令和 5 年 12 月 28 日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】</p> <p>グループホームあかねは、認知症のため日常生活に支障がみられるようになった方でも家庭に居るような雰囲気の中で、地域の皆様とも関わり合いながら、楽しい生活が送れるよう支援していきます。</p> <p>グループホームあかねは、お一人お一人の人格を尊重しながら役割を持っていただき、ゆくりでも自分の事が行っているよう支援していきます。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>①コロナ感染防止のため日常的な外出支援が出来ておらず、楽しみや気分転換が不足している → 車椅子ごと乗車できる福祉車両の購入を行い、車椅子の方の外出が可能となり、感染状況を確認しつつ少人数での外出が行えるようになったため、紅葉見学など季節を感じていただき、気分転換を図っている。</p> <p>②玄関出入口について、外からは自由に入れるが、中からはテンキーを操作しないと外に出られない → 時間設定をし、日中は玄関の自動ドアの電源を切り、自由に入出入りすることが出来る環境作りをしている。入所者が施設外に出る時には付き添い、安全に戻れるよう援助しています。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>市内西部にある旧東予市の中心部近くにある事業所は、区画整理をしている住宅や田園風景のある場所に立地している。2階にある大きな窓から、田園地帯や区画整理等でパワショベルの工事の様子が見えるなどの見晴らしが良く、利用者や来訪者から好評を得ている。開設して6年目を迎える建物であるが、清掃や換気、整理整頓などの管理が行き届き、気持ちの良い状態が保たれ、快適な空間となっている。コロナ禍において、外出や面会などの制限が設けられているが、天気のいい日には事業所周辺を散歩したり、敷地内に出て外気浴をしたり、車いすでも乗れる福祉車両を購入し、少人数で紅葉の見物や初詣に出かけるなど、利用者が季節を感じながら、少しでも気分転換が図れるよう支援することができている。また、事業所には家族会が設置され、コロナ禍で参集形式の会は中止されているが、12月に郵送で報告を行う工夫も行われている。さらに、年1回利用者に好みのメニュー表や、「今からしてみたいことは何ですか?」のアンケートを項目のチェック形式で実施するとともに、家族に、「スタッフに支援してほしい事はありますか?」というチェック形式のアンケートを実施する工夫を行うなど、利用者や家族から意見を出してもらいながら、楽しみのある穏やかな生活が送れるよう支援している。</p>
---	---	---

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>I.その人らしい暮らしを支える</b>									
<b>(1)ケアマネジメント</b>									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	本人との会話だけでは把握しづらい思いや希望を、家族から詳しく聞く為のアセスメントシートに変更し、一層の意向の把握に努めている。	○	/	○	入居前に、利用者や家族には事業所を来訪してもらい、管理者等は面談を行い、思いや暮らし方の希望、意向などの聞き取りをしている。また、面談時には、利用者から思いなどを聞けないことが多いため、日々の生活の中で、担当職員を中心に、徐々に意向などを聞くよう努めている。さらに、把握した情報は、アセスメントシート等に記載し、職員間で情報の把握に努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	体操やレクリエーション、行事等に参加された時の表情や行動を見て楽しめているのかどうかを汲み取るようにしている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	家族が洗濯物を引き取りに来所された時や電話にての現状報告時等、場面場面で相談、話し合いをしている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	本人の意向を聞いて、記録し共有している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	△	周辺症状が見られた時、本人の思いも考慮するが、職員の思い込みや決めつけにより、対応してしまっている時がある。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入所前の情報収集シートを手直しし、収集内容を細かくする事で聞き取りが具体的になり、これまでの暮らしや現状の把握が行いやすくなっている。	/	/	○	入居前に、利用者や家族には事業所を来訪してもらい、管理者等は面談を行い、アセスメントシート等を活用して、生活歴や健康状態、精神・認知機能、ADLなどの聞き取りをしている。コロナ禍において、利用者が入院や施設に入所している場合には、面会や面談ができない場合が多く、日々の生活の中で、利用者から徐々に情報を聞き取るよう努めている。また、以前利用していた介護支援専門員から情報を聞くとともに、病院や施設の関係者から、サマリーや情報提供書などを提供してもらうこともある。さらに、把握した情報は、アセスメントシート等に記載し、職員間で情報の把握に努めるとともに、新たな情報は赤字で修正や追記を行うなど、定期的な情報を更新することもできている。加えて、より詳しい情報収集ができるように、アセスメントシート等の見直しを行い、ワクチン接種情報の項目などの追加や変更も行われている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	日常生活の関りから心身の状態の把握に努めている。また、3か月に1度及び状態の変化を感じた時に、ADLや精神面の評価を行い現状の把握に努めている。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	○	申し送りや生活記録で、日々の変化や違いを把握している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	カンファレンスや普段の申し送りなどで意見交換し、本人の意向や希望を検討している。	/	/	○	事前に、担当職員が利用者から意見を聞くほか、来訪時や電話連絡時を活用して、家族から意見や要望を聞いている。また、訪問診療等で医師から指示やアドバイスをもらっている。さらに、把握した情報やアセスメント情報、モニタリング情報をもとに、カンファレンスを活用して、計画作成担当者や担当職員を中心に話し合い、課題把握のほか、利用者本人の視点で、より良く暮らすためのサービス内容などを検討している。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	検討した内容に基づき、課題を明らかにし、介護計画を作成している。	/	/	/	
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人や家族から得た情報やその都度の希望や意向を、可能な範囲で日々の生活に取り入れている。	/	/	/	
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人の希望を尊重しつつ、家族の意見も取り入れた介護計画を作成している。	○	/	○	事前に、担当職員が利用者や家族から意見を聞くほか、訪問診療等で医師から指示やアドバイスをもらい、把握した情報をもとに、計画作成担当者が介護計画を立案して、カンファレンスを活用して、職員間で話し合い、計画を作成している。また、出された意見を尊重しながら、利用者や家族の意向が反映された計画となるよう努めている。
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	その方の状態に合わせた過ごし方が出来るように対応している。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	家族等の協力体制等は盛り込まれているが、コロナ下にて交流制限もあり、本年も地域の人達との協力体制が盛り込まれた内容にはなっていない。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	介護計画を個人のカルテに挟んで、職員間で共有している。	/	/	/	○ 担当職員等は、カンファレンスに参加して、介護計画の内容の把握に努めるとともに、個別のファイルをスタッフ室に置き、職員はいつでも確認できるようにしている。また、生活記録に利用者の状況等を記載するほか、井と番号を記載して、生活記録等に計画に沿ったサービス内容を記録を残すとともに、夜間は赤字で記載して、分かりやすくしている。さらに、職員間で統一した記録が残るように、生活記録の記入方法の勉強会を実施することによって、今後は、介護ソフトの記録様式等の導入を見越して、法人本部と協力をしながら、徐々に職員間で検討していくことも期待される。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	生活記録に実施した内容を記録している。月1回モニタリングを職員間で行い、状況を確認し日々の支援につなげている。	/	/	/	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	入所時は、約1か月の暫定プランを立案している。その後は、毎月、モニタリングを実施し、6か月おきに、計画を立て直している。	/	/	/	○ 介護計画は、6か月に1回見直しをしている。入居後は、暫定の介護計画を作成し、約1か月で見直しをしている。また、計画作成担当者を中心に、生活記録等で利用者一人ひとりの現状を確認して、モニタリングを実施することができている。さらに、入退院など、利用者の状態の変化が生じた場合には、家族に連絡を行い、現状に即した介護計画の作成をしている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	毎月モニタリングを行い、現状確認を行っている。	/	/	/	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	変化が見られた時は、職員間で話し合う場を持ち、現状に合った支援を行っている。変化の状況を家族にも連絡している。現計画が実施できない場合は、新たな計画を作成している。	/	/	/	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	毎月第4金曜日に、職員会議・ユニット会議・カンファレンスを行っている。緊急案件は出動している職員で話し合い、出動していない職員には申し送りをするようにしている。	/	/	/	○ ユニット会議は各ユニットに分かれて、毎月第4金曜日の17時30分から1時間程度、同時並行で開催しており、その日の運出や夜勤を除く、より多くの職員が参加できるよう工夫をしている。また、会議終了後に、夜勤や運出の職員に、会議の情報伝達をするとともに、参加できなかった職員には議事録を作成し、確認してもらうことができている。以前は、全体の職員会議をユニット会議の前に実施することができていたが、コロナ禍において開催を自粛しており、管理者は、隔月で順番にユニット会議に参加し、指導や情報伝達などを行っている。さらに、緊急案件のある場合には、その日の出勤者で話し合いをしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	会議では、自分の考えを言ったり、思いを伝えたりする等、意見交換が出来ている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	○	開設日時を固定し、職員にはその日は予定を入れないように伝えている。出席できなかった職員が会議の内容が分かるように議事録を作成している。	/	/	/	
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	早出・日勤・運出・夜勤と業務に入る前の申し送りや申し送りノートを活用し、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。	○	/	/	○ 日々、職員の出勤時には口頭で申し送りを実施している。また、職員は出勤時に、申し送りノートや業務日誌、生活記録などの確認を行い、確認後にはサインを残し、確実な申し送りに繋げている。時には、伝達漏れがある職員も見られ、管理者やリーダーは申し送りノートなどを確認するよう指導している。
<b>(2) 日々の支援</b>									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	入所者とのコミュニケーションの中でしたい事を聞き、出来る事は叶えるように努めている。	/	/	/	○ 高齢化等に伴い、その日にしたいことなどをいう利用者は少なくなってきている。飲み物や着る服、レクリエーションなど、職員は利用者へ声をかけ、自分で選択ができるよう支援している。また、事業所では、多くの行事を取り入れたり、近隣の飲食店からの宅配や弁当を購入して美味しく食べたり、外出時に景色を見るなど、楽しみのある生活や生き生きとした表情が見られるよう支援している。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくらせている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	水分補給時の飲み物や着替えるの衣類など、自分で選択し決めて頂いている。	/	/	/	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのベースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	一応、施設の日課を基本としているが、入所者一人一人の希望やペースで生活が送れるように支援を行っている。	/	/	/	
		d	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	楽しく過ごせるように、表情を見ながら声掛けを行うように努めている。	/	/	/	
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らしができるよう支援している。	○	表情や態度を見ながら、本人の意向に沿った生活が出来るよう支援している。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、自立たずさりがない言葉かけや対応等)	○	職員会議で話し合ったり、普段の業務の中でも職員間で注意し合うなど、常に意識して行動している。トイレ誘導の際は小声で耳元で話しかけるなど、入所者への配慮を心掛けている。トイレ誘導の際は、小声で耳元で話しかけるなど、入所者への配慮を心掛ける。	○	○	○	○ 職員は、人権や尊厳などを勉強会で学び、常に意識した対応をしている。トイレ誘導時には、職員は利用者の耳元で小声で話しかけるよう心がけている。時には、大きな声を出してしまう職員も見られるため、管理者等は該当職員に指導や注意喚起をしている。また、居室をプライバシーのある空間と認識し、入室時に職員はノックや声かけをして、利用者の返答が購入してから入室するとともに、不在時にも、事前に利用者へ「清掃で入ります」などの声をかけ、了承を得た上で、入室することができている。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	不安や羞恥心が和らぐような声掛けを行い、プライバシーに配慮した介助を行っている。	/	/	/	
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室を訪室する際は、扉をノックして声掛けをして、返事を聞いてから扉を開けるようにしている。	/	/	/	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	職員会議でプライバシーの保護や個人情報漏洩について話し合い、理解し遵守している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	職員も、入所者の方から教えて頂く事や助けて頂く事も多くあり、感謝の気持ちを述べるなど、互いに感謝し合える関係を心掛けている。				洗濯物たたみや清掃、野菜の皮むき、食事の後片づけなどを手伝ってもらったり、俳句の季節などを教えてもらったりした場合には、職員は利用者へ感謝の気持ちを伝えている。また、車いすを他の利用者が押したり、利用者同士で励ましの声かけをしたりするなどの助け合う場面も見られ、職員は見守りをしている。さらに、職員は利用者同士の関係性を把握し、配席などの考慮をしている。時には、耳の遠い利用者が聞こえておらず、言い合いなどのトラブルになることも見られるため、職員は早期に間に入ったり、場所に移動して話を聞いたりするなど、周りの利用者に不安や支障が生じないような対応をしている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	入所者同士が助け合ったり、支え合ったり出来るように取り組んでいる。				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	○	入所者の生活や入所者同士の関係性を把握し、トラブルがないように配慮している。話好き入所者を中心に、入所者同士が会話出来るように配慮したり、座る位置なども考慮している。				
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	職員が間に入り、当事者から話を聞いたり、落ち着くまで居室で過ごして頂くなど、他の入所者に不安や支障が生じないように心掛けている。				
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	アセスメントや本人、家族から聞いた人間関係を把握、また普段のコミュニケーションの中で知りえる事を把握している。				
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていったりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	ドライブに出かけた際などに、馴染みの場所を通ったりする事はあるが、コロナ禍の為知人や友人等に会いに行ける支援は行っていない。				
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	密を避けてドライブに出かけたり、館外への散歩を行ったりしているが、時間は入所者の希望時に添えていない時がある。	○	△	○	コロナ禍において、事業所では外出できる機会が減少しているが、天気の良い日には、事業所周辺を散歩したり、敷地内で外気浴をしたりすることができている。前回の外部評価から、目標達成計画で外出支援に取り組んでおり、法人・事業所として、車いすでも乗れる福祉車両を購入し、少人数で紅葉を見に行ったり、初詣に出かけたりするなど、利用者が季節を感じながら、少しでも気分転換が図れるよう支援することができている。また、母体病院の受診時は、管理者が同行支援するほか、専門医の受診は家族に同行をお願いしている。また、外食等ができない代わりに、近隣の飲食店の宅配や弁当を注文したり、事業所内でできる多くの行事を取り入れたりする工夫をしている。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	コロナ感染対策の為、職員以外の協力を得ての外出は行っていない。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	認知症に関する研修に参加したスタッフより、内容報告の機会等を利用した勉強会を行っている。また、問題に直面した時、相談し合って一人一人のケアにあたるように努めている。				事業所では、勉強会で認知症の行動や心理状態などを学ぶとともに、実践者研修に参加した職員が伝達の勉強会を実施するなど、職員の理解促進に努めている。中には、新入職員もおり、認知症などの行動を理解していない場合も見られるため、管理者やリーダーはその都度の指導をしている。また、散歩のほか、いすに座ってできる体操やDVDを見ながらごぼう体操を取り入れるなど、利用者の心身機能の維持が図れるよう支援している。さらに、事業所では、利用者自身にできることはしてもらい、職員は見守りのほか、できない部分や間違いに対して、声かけや介助をしている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	マニュアルを参考に、身体面の機能低下の特徴を理解し、日常生活の中で残存機能の活用に取り組んでいる。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	本人の行っている事を見守り、出来てない事や違っている事に対して、声掛けをしたり、介助をしたりしている。	○		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	習字や生け花等、出来るだけ希望に沿い楽しんで頂いている。また、朝の掃除や食器拭き、タオルたたみ、役割となってされている事を把握している。				朝の清掃や洗濯物たたみ、野菜の皮むき、食事の盛り付けなど、職員は利用者一人ひとりに役割や出番を担ってもらえるよう支援している。また、清掃や洗濯物たたみを日課のようにしてくれている利用者もいる。さらに、高齢化や認知症状の進行により、できることは少なくなってきたり、作品づくりの際に貼り付けなどをしてもらったり、小さなタオルをたたんでもらったりするなど、少しでもできる役割を担ってもらえるよう努めている。加えて、習字や生け花、俳句など、利用者の希望に沿って、可能な範囲で趣味や好きなことなどを継続できるような支援にも取り組んでいる。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごすように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	本人の現在のレベルを把握し、出来る事はして頂くように取り組んでいる。	○	○	○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つとらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	全職員が把握している。	/	/	/	毎朝、自分で服を選んで着替え、整容を整えることのできる利用者もいる。また、電気シェイパーを職員が渡し、利用者にてできる部分の髭剃りをしてもらうとともに、剃り残しの確認や仕上げなどの支援をしている。さらに、服装などの整容の乱れや汚れも見られる場合には、職員は利用者のプライドを傷つけないように、さりげなくフォローするとともに、必要に応じて、居室に移動して着替えてもらうこともある。加えて、月1回、訪問内容の来訪もあり、利用者の好みの髪型に散髪をしている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	一緒に着替えを選んだり、髪形などは、本人に聞きながら整髪したりする支援をしている。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	二者択一にして聞いて掛けたり、表情を見たりして、本人の気持ちに沿うように努めている。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しむよう支援している。	○	季節や気温、行事に合わせた服装を着るように支援している。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	本人が傷つかないような声掛けをし、着替え等の支援を行っている。	◎	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	×	コロナ感染対策の為、外部での理美容は行っていない。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	本人らしさが保てるように支援している。	/	/	○	
		h	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	理解している。	/	/	/	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	コロナ禍の為、食材選びの外出等行っていない。食べ残されている時、本人に理由を聞く等してそれを参考にし献立づくりに生かしている。野菜の皮を削いたり、盛り付けや片付け等を一緒にやっている。	/	/	○	法人・事業所として、業者と契約を行い、管理栄養士がバランスの取れた献立で、湯煎する食品などを配達され、朝夕の食事は各ユニットのキッチンで、炊飯やパン、汁物などを準備するとともに、盛り付けて利用者に食事を提供している。昼食は近隣の食堂におかずを用意してもらったほか、月2回程度の行事等の際には、お弁当を購入したり、近隣の飲食店に宅配してもらったほか、食事が楽しめるような工夫もしている。利用者には、玉ねぎの皮むきや食事の盛り付け、下膳、後片づけなどの手伝ってもらっている。また、利用者と一緒におやつ作りを行うこともある。アレルギーのある利用者は現在いないが、苦手な食材のある場合には、代替品を用意するなどの対応をしている。食器類は、入居時に利用者が使い慣れた物を持ち込んで使用することもできるが、ほとんどの利用者は、事業所で用意した使いやすい物を使用している。食事の際に、ほとんどの利用者は自分で食事を摂ることができ、職員は見守りのほか、必要に応じてサポートしている。コロナ禍において、食事は利用者とは別々に摂っており、利用者の食後に、職員は休憩時間等を活用して、順番に食事を摂るようになっている。利用者の状態に合わせて、刻み食などの食の形態にも対応している。リビングに面したオープンキッチンで、炊飯や盛り付けなどを行っており、利用者は食事の音や匂いを感じるとともに、食事が待ち遠しくなるような雰囲気づくりに努めている。さらに、年1回、利用者メニュー表を提示して、ご飯物や麺類、鍋物、メインのおかずなど、好きな物にチェックを入れてもらうなどの嗜好の調査を行うこともできている。加えて、食べ残しがある場合に、職員から原因を聞くほか、定期的に、法人内の管理栄養士からアドバイスをもらうこともできている。職員は、利用者と同じ物を食べていないため、業者の宅配サービスなどを利用していても、定期的に職員が検食を兼ねて、利用者がどのような物を食べているかの把握を行い、業者等に意見や要望を伝えることも期待される。
		b	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	コロナ禍の為、利用者と共に買い物に行っていない。後片付け、盛り付け等を続けて行うことで役割を感じてくれていて自信や達成感に繋がっている。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	入所前のアセスメントや日常生活の中で把握している。	/	/	/	
		d	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって音づかいのものを取り入れている。	○	入所者の好みや苦手なもの、アレルギー等は把握している。季節感を感じさせる旬の食材や、入所者にとって懐かしい物等を取り入れている。	/	/	○	
		e	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法として、おいしい盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	盛り付けや器の工夫をしている。刻み食にした場合も色どりの工夫をしている。	/	/	/	
		f	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	食事の際は、使いやすい物を施設が提供し使用してもらっている。本人や家族からの要望は無いが、希望があった際は意志を尊重していきたい。	/	/	○	
		g	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	食事摂取中の一人一人の見守りやサポートは行っている。毎食は、食卓を一緒に囲んでないが、週に1回及び行事の時等は、一緒に食事をしている。	/	/	△	
		h	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	入所者の過ごされているフロア近くで調理をしており、食事が待ち遠しく美味しく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	/	○	○	
		i	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	一人一人の状態に応じた食事や水分摂取量が確保できるように努めている。	/	/	/	
		j	食事が少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	食事や水分摂取量が少ない時は、好きな食べ物や飲み物を提供したり、時間をおいて再度提供したりの工夫をしている。	/	/	/	
		k	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	肉や魚等偏らないように週間ごとの献立表を作成している。また、定期的に法人内の管理栄養士のアドバイスを受けている。	/	/	○	
l	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	調理用具の消毒や新鮮な食材の使用など、衛生管理に努めている。	/	/	/			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	全職員が理解している。	/	/	/	事業所では、定期的な歯科医や歯科衛生士から指導を受けて、職員は正しい歯磨きの仕方や、口腔ケアの重要性を理解している。現在は、歯科衛生士等の指導は休止状態となっている。時には、昼食前に、口腔体操をすることもある。毎食後に、職員は利用者へ声をかけて、洗面台で口腔ケアを行い、必要に応じて、見守りやサポートをしている。利用者から、口腔内の確認や痛みなどの訴えを言うてくる利用者もあり、自分で歯磨きをしている利用者を含めて、定期的に、全ての利用者の口腔内の状況を把握することができている。また、訴えや虫歯などの異常が見られた場合には、歯科医の受診に繋げている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	△	利用者個々の、口の中の健康状況を確認出来るようになってきている。	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	△	協力歯科医院歯科衛生士の定期指導が始まり、正しい口腔ケアの方法を学ぶ事が出来、日常の指導に活かしている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	個々の能力を見て支援している。月・金曜日は、ポリドントを実施している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	○	毎食後、口腔ケアの声掛けや支援を行い、記録をしている。協力歯科機関と契約しており、状態に応じ往診して頂いている。	/	/	○	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	理解している。	/	/	/	事業所では、紙パンツを使用している利用者が多い。中には、パッドの使用を工夫しながら、声かけをすることにより、布パンツで過ごすことのできている利用者もいる。また、記録で利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して、職員は利用者がトイレで排泄できるように、声かけやトイレ誘導などの支援をしている。さらに、排尿の量が多いなどの状況に応じて、利用者がパッドや紙パンツなどの排泄用品の使用時には、家族に相談するとともに、職員間で適切な用品の使用を話し合い、家族に確認の上で、使用をしている。加えて、乳酸菌飲料や水分補給をするほか、運動や食物繊維の多い食品を取り入れるとともに、必要に応じて、軟便剤を使用するなど、利用者にならぬ排便が行えるよう取り組んでいる。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	理解している。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	毎日、記録を取り排泄パターンの把握に努めている。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々々の状態にあった支援を行っている。	○	日中は全入所者トイレで排泄して頂いている。おむつ類も、一人一人の状況にあった物を使用するように努めている。	◎	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	水分摂取量や活動量、食事などの改善に向けた取り組みを行っている。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	個々の排泄パターンに合わせた早めの声掛けやトイレ誘導に努めている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	本人・家族・職員で話し合い、本人が納得した上で使用開始するように努めている。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	入所者の状態にあった下着やおむつを使い分けしている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	食物繊維を多く含んだ食品やイージーファイバーを提供したり、体操をしたりして便秘解消に取り組んでいる。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	△	普段の入浴日は決まっているが、時間帯や長さ、温度等は出来る限り本人の希望に沿うように努めている。入浴を拒まれたりした時は次の日にしたりしている。また、訪問美容の後は、入浴できるように考慮している。	◎	/	○	利用者は、週2回入浴することができる。脱衣場には、電気ストーブを置き、利用者が大きな温度差を感じずに入浴できるよう工夫している。また、各ユニットで、午前の時間帯に2名、午後の時間帯に1名の入浴支援と決めているものの、体調管理を行いながら、湯の温度や湯船に浸かる長さなど、可能な限り利用者の希望に沿った柔軟な支援に努めている。現在は、入浴を拒む利用者はおらず、喜んで入浴してもらうことができている。さらに、シャンプーなどは事業所で用意した物を使用しているが、ボディソープは、入浴後もしっかりと肌触りの良い物を使用しており、すべすべとした肌触りとなり、利用者にも喜ばれている。加えて、季節が感じられるように、ゆず湯などに対応することもある。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	一人ずつ入浴し、入所者の方のペースに合わせた入浴が出来ている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	マンツーマン対応で安心して入浴して頂いている。また、出来る事は自力で頂き、出来ない所のみ介助を行っている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	原因や理由を理解し、後日に入浴を回したりしている。渋る方がいる時は、話を聞きながら間を置くと入浴できている、無理強いすることも無い。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	毎朝、全入所者のバイタル測定の実施や表情等の様子を見たりしての健康状態の確認を行っている。入浴後の状態も確認している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	把握している。				事業所には、眠剤などの服薬をしている利用者もいるが、医師に報告や相談を行うとともに、日中に服薬の影響が残らないように、減薬などの調整をしている。中には、新しく入居した利用者が、環境の変化等で夜間に眠れないこともあり、職員と一緒に、ホールでお茶を飲んで過ごしてもらい、うとうとしたタイミングで居室へ誘導を行い、眠ってもらうなどの対応をすることもある。また、昼夜が逆転しそうな利用者には、日中にできるだけ起きて過ごしてもらうほか、外気浴や体操、散歩などを取り入れながら、職員は夜間に良眠できるよう支援している。さらに、不眠が続く場合には、利用者の体調面を考えて、医師に相談を行い、服薬に繋がる場合もある。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	昼夜逆転傾向の入所者の方などに対しては、日中出来るだけ起きて頂けるように取り組んでいる。				
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	訪問診療時やそれ以外でも利用者の状態に変化があれば相談し支援を行っている。				
		d	休息や昼寝等、心身を休める場が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	昼夜逆転傾向の方でない入所者に対しては、本人の希望に沿うように取り組んでいる。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	希望時に、対応や支援をしている。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	出来る事はして頂き、出来ない所のみ援助している。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	早朝や夜間以外は、出来るように配慮している。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	本人に手渡し、読めない場合は精読している。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	全入所者の家族にお願いしている。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	理解している。				
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	本年は、コロナ対策の観点から、理解や協力を得る働きかけを行っていない。				
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	入所者の希望に応じ、家族と相談しながらお金の所持や使用を支援している。				
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	金額や使い方について、話し合っている。				
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	金銭管理が出来ない入所者に対しては、必要時に家族に連絡し、お金を持ってきて頂いたり、物品を購入して頂いたりしている。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		○	○	○	コロナ禍において、事業所には外出や面会などの制限が設けられ、利用者や家族からの要望は少なくなってきたものの、可能な範囲で柔軟な対応に努めている。また、専門医の受診は家族にお願いをしているが、母体病院の受診は、管理者等が同行支援の対応をしている。	
<b>(3) 生活環境づくり</b>									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	時間を決め自動ドアは解除し、内外へ気軽に出入りできるように工夫している。	○	◎	○	事業所周辺は田園地帯に囲まれ、事業所前に広い駐車場を整備し、家族等が来訪しやすいようになっている。また、幹線道路等には大きな事業所案内の看板が設置され、車での来訪をしやすくしている。さらに、玄関周辺は、すっきりと整理整頓が行われているほか、広い敷地が確保されている。コロナ禍において、来訪者は少なくなっている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていない等。)	◎	共有の空間は家庭的な雰囲気を有している。また、季節に合った装飾を行っている。	○	○	◎	開設して6年目を迎える建物であるが、清掃や換気、整理整頓などの管理が行き届き、気持ちの良い状態が保たれ、快適な空間となっている。明るい共用空間には大きな窓が設置され、田園地帯や区画整理等でパーショベルの工事の様子が見えるなどの見晴らしが良く、利用者や来訪者から好評を得ている。また、ガラス窓やホールの壁などには、筋分などの飾り付けや行事の写真、ぬり絵、日めくりカレンダーなどが飾られ、季節を感じられるようになっている。さらに、食事スペースを兼ねた広いホールには、ソファやテーブル席を多く設置され、利用者は思い思いの場所で過ごせるようになっており、仲睦まじくテレビを見ている様子も見られた。加えて、ホール内にはオープンキッチンが設置され、職員は利用者の様子を見渡ししながら、食事の用意をすることもできる。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	毎朝、掃除が出来る入所者と一緒に、共有の場や居室の掃除を行っている。	/	/	◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	時期ごとに、装飾を変えたり、行事をしたり、食べ物を提供したりと、季節感を感じ居心地よく過ごせるように工夫している。	/	/	◎	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	談話室で思い思いに過ごして頂いたり、居室で好きなように過ごしたり出来るように工夫している。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	居室内であれば、危険な物以外は希望される物を持ってきて頂き、居心地よく過ごせるようにしている。	◎	/	○	居室には、ベッドやエアコン、タンスが備え付けられている。また、家族の写真や遺影、写真ボードなどを持ち込むことができる。衣替えを家族に手伝ってもらうこともあり、すっきりと片付けられている居室も多い。誕生日のお祝いに使用した大きなメッセージのほか、自分で書いた習字の作品なども飾られている。さらに、転倒の恐れのある利用者の居室には、床にクッション材を敷き、転倒の衝撃をやわらげている居室の工夫も見られた。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	トイレの場所等、わかるように文字を大きくしたりして、自立した生活が送れるように配慮し、不安や失敗を招くような物品に関しては職員間で検討し、家族と話し合い持ち帰って頂く等、工夫している。	/	/	◎	居室の入り口には、表札や飾り付けを行い、利用者が認識しやすいようにしている。中には、目が見えにくい利用者が、日中に自分の部屋を迷う場面も見られ、職員が誘導することもある。また、建物はバリアフリー構造で、廊下やホールも広く、車いすや手押し車を使用している利用者にも動線を確保することができている。さらに、トイレなどには大きな分かりやすい表示が行われている。
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	協力医療機関との連携を図り、いつでも相談できる体制をとっている。	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていること、異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	○	理解している。日中は鍵をかけないように工夫している	◎	x	○	職員は勉強会等で学び、鍵をかけることの弊害を理解している。事業所は建物の構造上で、外からは自由に入れるものの、中からはテンキーで解除できるようになっているが、前回の目標達成計画に掲げて、日中に自動ドアの電源を切り、玄関のドアの開閉は重たいが、自由に利用者が外出できる環境となるよう工夫をしている。夜間は防犯のため、19時30分から7時頃まで、玄関の施錠をしている。以前、利用者が一人で外出し、早期に発見して大きな騒ぎにはならなかったものの、ユニットの入り口にセンサーチャイムを取り付けて、利用者や来訪者の出入りを職員に分かりやすくしている。また、外出しようとする利用者には、職員が見守りをするともに、一緒に外に出て、散歩をするなどの対応をしている。コロナ禍において、来訪者にはインターホンで対応するようになっている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	家族の理解を図っている。	/	/	/	
<b>(4) 健康を維持するための支援</b>									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	把握している。	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	全職員、異常時、早期発見できるように注意しながら業務をしており、変化は生活記録に記録している。	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	、協力医療機関との連携を図り、いつでも相談できる体制をとっている。	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	本人や家族の希望に沿った対応や支援をしている。	◎	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	本人や家族の希望に沿った対応や支援をしている。	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	その都度、本人や家族と話し合っている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	情報提供を行っている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	コロナ禍の今年は、入院後は、電話にて定期的に情報交換を行っている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	得た情報や気づきを、施設の看護師に伝達相談が出来る。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	24時間、連絡相談が出来る体制が出来ている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできる体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	状態変化に応じた支援の体制が出来ており、状況に応じ協力医療機関への受診の支援を行っている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	服用中の薬の内容プリントをカルテに綴じ、確認できるようにしている。また、普段と様子が違った場合など記録し情報提供を行っている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	飲み忘れや誤薬なく服薬できるように、個別の薬ケースを作る等、取り組んでいる。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	普段と変わった事がないか、日常的に気を付けている。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	状態の変化の段階ごとに本人や家族と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。				事業所では、「重度化した場合の対応に係る指針」を整備しているが、開設時から看取り支援は実施しておらず、入居前に家族等に説明を行い、理解を得た上で入居してもらっている。また、母体病院の訪問診療のほか、緊急時の入院対応も可能となっており、利用者や家族、職員には安心感もある。さらに、状態の変化が見られた場合には、医師から家族に説明してもらうとともに、医師や関係者を交えて話し合い、方針を共有している。事業所では対応可能な限り、利用者に生活を送ってもらえるよう支援しているものの、医療行為のほか、食事が食べられなくなったり、浴槽を跨げなくなったりした場合などには、病院や他の施設へ転院をしてもらっている。さらに、急変時には、救急搬送の対応をとっている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	方針を共有している。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	×	終末期の対応が、現在の所ない。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	入所前に説明し、理解を得てから入所して頂いている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々より良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	連携を図りながら支援していく体制を整えている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族への心理的支援を行っている。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	法人勉強会及び施設の勉強会で定期的に学んでいる。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	各感染症に対するマニュアルを作成しており、発生した場合、手順に沿った対応が出来るよう、勉強会時に練習している。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	○	情報を取り入れ、情報共有し随時対応している。				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	職員・入所者は徹底している。来訪者に対しても、各ユニットの入り口に、消毒液やマスクを用意し、協力の張り紙をしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	職員と家族とで支えていける関係が築けるよう努めている。				コロナ禍以前は、新年会や誕生日会、敬老会、クリスマス会などの行事の際に、家族の参加を呼びかけて、交流を図ることができていたが、コロナ禍において、家族の参加できる行事の開催は中止している。また、事業所には家族会が設置され、コロナ禍で参集形式の会は中止されているが、12月に郵送で報告を行い、職員の状況や入所者の情報、事故・ヒヤリハット報告、行事報告、消防訓練、外部評価などの情報を伝える工夫もしている。外出や面会などの制限が設けられ、事業所では、家族との窓ガラス越しの面会にも対応をしている。担当職員等は、来訪時に利用者の近況を家族に伝えるほか、気軽に意見を言ってもらえるように伝え、意見や要望を聞くようにしている。さらに、毎月、行事予定やあかね通信を送付するほか、年4回法人から機関紙「ほのぼの」を送付して、事業所の出来事などを伝えている。加えて、利用者一人ひとりのアルバムが整備され、来訪時に家族等に見てもらい、利用者の事業所内の様子分かるようにしている。
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	×	本年は、コロナ感染症対策の為、家族が活動に参加できる機会は無かった。	○		△	
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たよりの」発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	コロナ禍で来訪者は少ないが、来訪時には日常の様子を具体的に伝えている。また、全家族には毎月行事予定やあかね通信の送付を行っている。	◎		○	
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	より良い関係が築いていけるように努めている。				
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	その都度報告し、理解や協力が得られるようにしている。	○		○	
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	入所前に、入所者本人のリスク説明を行い、その人らしい生活が出来るように話し合っている。				
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	本年は、コロナ感染症対策のため家族が気軽に訪れる状況ではなかったが、来訪時に様子を伝えるなどして関係を築き、家族が職員に気軽に伝えたり過ごせるように取組み、常に居心地よく過ごせるような雰囲気づくりを心掛けている。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	理解、納得を得てから、名前や印を頂いたき、変更があった場合は、文章による通知や説明を行い、同意を得ている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	家族に説明し、話し合ってから、納得して頂いてから、退所先への支援もしている。				
<b>III. 地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域、事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	×	本年はコロナ禍にて、地域の方に向けてのアピールを行っていない。		◎		コロナ禍以前は、地域の秋祭りや盆踊り、運動会に利用者と一緒に参加したり、楽器演奏のボランティアが来訪したり、事業所で夏祭りを実施して、家族や近隣住民に参加してもらうなど、交流を図ることもできていた。また、コロナ禍において、外出や面会の制限が設けられ、地域住民と交流できる機会は減少しているが、事業所周辺の散歩時に、挨拶や会話を交わすほか、近隣の家の改修時等に、敷地内に車を置いてもらうなどの交流を継続することもできている。また、地域の消防団が、今年の標語をポストに入れてくれ、職員等への火災等の啓発にも役立っている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	×	本年は、コロナ感染症対策の為地域間の交流の機会は無く、関係を深める事が出来なかった。		○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	×	現状維持で、増えていない。				
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	本年はコロナ禍にて、立ち寄る事は無い。				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	×	本年はコロナ禍にて、日常的なおつきあいが出来ていない。				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	本年はコロナ禍にて、施設外の方との交流は行っていない。				
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	×	本年はコロナ禍にて、周辺地域の諸施設と関係が深まる取り組みは行っていない。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人の参加がある。	×	コロナ感染対策の為、本年は参加しての推進会議を開催していない。	○	△	△	コロナ禍において、運営推進会議は書面開催となっていたが、外部からの参加は難しいものの、最近の会議は、利用者や管理者、事務職員等が集合形式で、食事の話などをするようになってきている。また、会議資料は、全ての家族のほか、会議の参加メンバーに送付を行い、一部の家族等から意見をもらうこともできている。さらに、会議では利用者の状況のほか、事故・ヒヤリハット報告や行事報告、現協会の状況などを報告することができている。加えて、サービスの評価結果は、参加メンバーや全ての家族に資料を送付して、報告することができている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	△	評価の結果や取り組み状況について、議事録を書面で報告し、議事録についての感想や質問をアンケートの形で頂きお答えしている。内容については、全てホームページに掲載している。	○	◎	○	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮工夫をしている。	×	本年は、コロナ感染対策対応の為、推進会議を行っていない。	○	○	○	
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	各ユニットに理念を表示し、理念に基づいた会合を行うよう取り組んでいる。	○	△	△	法人が大きいため、医師である代表者の来訪まではないものの、定期的に法人の事務長等の来訪があり、管理者等から報告を受けている。月1回第2水曜日に、法人の運営会が開催され、管理者が出席して、職員から出された意見を代表者等に伝えることもできる。事業所として、年間の勉強会の計画を立てて、月1回テーマを決めて、職員が資料を順番に作成して報告等をするのと同時に、外部研修に参加した際には、他の職員に伝達報告を行うなど、職員のスキルアップにも努めている。動画配信の研修を活用して、職員は受講することもある。新入職員の入社時には、管理者は職員への指導をするのと同時に、1、3、6か月で個別面談をするなど、職員育成や定着にも取り組んでいる。また、介護福祉士などの資格の取得や外部研修の参加への支援もあり、介護福祉士の資格を取得している職員も多い。さらに、管理者は職員に小さなことでも意見をだしてもらおう伝えて、気軽に相談に応じるなど、話しやすい雰囲気づくりに努めている。コロナ禍以前は、親睦会などを実施することもできていたが、現在は中止されている。加えて、法人・事業所として、働きやすい勤務体系も整備されており、暦どりの休日数も確保され、希望休や有給休暇の取得をしやすくするなどの環境も整備されている。
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	地域の人達には伝わっていない。	○	×	△	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的に運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	管理者や職員の能力を把握し、研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	△	△	法人が大きいため、医師である代表者の来訪まではないものの、定期的に法人の事務長等の来訪があり、管理者等から報告を受けている。月1回第2水曜日に、法人の運営会が開催され、管理者が出席して、職員から出された意見を代表者等に伝えることもできる。事業所として、年間の勉強会の計画を立てて、月1回テーマを決めて、職員が資料を順番に作成して報告等をするのと同時に、外部研修に参加した際には、他の職員に伝達報告を行うなど、職員のスキルアップにも努めている。動画配信の研修を活用して、職員は受講することもある。新入職員の入社時には、管理者は職員への指導をするのと同時に、1、3、6か月で個別面談をするなど、職員育成や定着にも取り組んでいる。また、介護福祉士などの資格の取得や外部研修の参加への支援もあり、介護福祉士の資格を取得している職員も多い。さらに、管理者は職員に小さなことでも意見をだしてもらおう伝えて、気軽に相談に応じるなど、話しやすい雰囲気づくりに努めている。コロナ禍以前は、親睦会などを実施することもできていたが、現在は中止されている。加えて、法人・事業所として、働きやすい勤務体系も整備されており、暦どりの休日数も確保され、希望休や有給休暇の取得をしやすくするなどの環境も整備されている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるように取り組んでいる。	○	心肺蘇生の練習や勉強会等、職員がスキルアップするよう取り組んでいる。	○	△	△	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	努めている。	○	△	△	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	×	本年は、コロナ感染対策対応の為、交流機会を持つ事はなく相互研修等の活動を通しての職員の意識を向上させていく取り組みは行っていない。	○	△	△	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	普段から意見を交わし合える環境を作っている。	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	○	勉強会を行い、理解している。不適切なケアが行われえていないか、職員間で注意し合い、法に基づく手順も理解している。	○	△	△	事業所には、虐待防止委員会や身体拘束等適正化委員会が設けられ、虐待防止マニュアル等を整備して、3か月に1回委員会を開催して、職員間で話し合うとともに、定期的に虐待防止の勉強会を実施し、職員は理解をしている。また、虐待の芽チェックリスト(入所施設版)を活用して、職員一人ひとりの振り返りも行われている。時には、耳の遠い利用者には、職員が大きな声を出したり、トイレの誘導時にあからさまな言葉を発したりすることも見られるため、不適切な言動を発見した場合には、職員同士で注意し合うとともに、管理者やリーダーが該当職員に確認を行い、指導や注意喚起をしている。さらに、管理者等は職員の疲れやストレスに気を配るとともに、年1回ストレスチェックを実施している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返り話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	職員会議やユニット会で話し合ったり、随時、話し合える環境を作っている。	○	△	△	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	希望者には、外部のストレスチェックを依頼する等、職員の現状把握に努めている。	○	△	△	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	資料を作成し、職員会議で伝えている。	○	△	△	事業所には、虐待防止委員会や身体拘束等適正化委員会が設けられ、虐待防止マニュアル等を整備して、3か月に1回委員会を開催して、職員間で話し合うとともに、定期的に虐待防止の勉強会を実施し、職員は理解をしている。また、虐待の芽チェックリスト(入所施設版)を活用して、職員一人ひとりの振り返りも行われている。時には、耳の遠い利用者には、職員が大きな声を出したり、トイレの誘導時にあからさまな言葉を発したりすることも見られるため、不適切な言動を発見した場合には、職員同士で注意し合うとともに、管理者やリーダーが該当職員に確認を行い、指導や注意喚起をしている。さらに、管理者等は職員の疲れやストレスに気を配るとともに、年1回ストレスチェックを実施している。
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	随時、職員間で話し合っている。	○	△	△	
		c	家族等から拘束や施設の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	出来る限り身体拘束を行わないよう取り組んでいる。	○	△	△	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	○	勉強会にて制度等についての理解を深め、相談があった場合は説明、支援を行っている。				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	連携体制が出来ている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルを作成し、職員全員が周知している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	定期的に訓練を行い、現場で活かしている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	職員会議やユニット会で報告し、対策等を話し合っている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	普段から話し合い、事故防止に取り組んでいる。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	適宜対応している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	速やかに対応し、必要と思われる場合は、市にも相談・報告をする体制をとっている。本年は、苦情は寄せられていない。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	本年、事例は無いが、事例があった場合の対応について、速やかな回答・納得を得ながら前向きに話が進むよう話し合いをする事を基本にしている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	本年は、運営推進会議は書面であったが、相談窓口、意見箱の設置等いつでも伝えられる環境を作っている。	○		○	日々の生活の中で、職員は利用者から意見を聞き、可能な範囲で対応をしている。管理者は、家族に気軽に意見を言ってもらえるように伝えており、来訪時や電話連絡時に、担当職員等は意見や要望を聞くよう努めているが、意見は少なくなっている。また、重要事項説明書には、相談窓口や意見箱の設置がフローチャートで分かりやすく記載して、意見を出してもらいやすい体制を整備しているが、コロナ禍において、家族の来訪する機会が少なく、窓口や意見箱への意見は出されない状況となっている。さらに、年1回利用者「今からしてみたいことは何ですか」のアンケートを実施して、事前に提示した項目にチェックを入れてもらうとともに、家族に、「スタッフに支援してほしい事はありますか」などのアンケートを実施して、少しでも意見を出してもらえるよう工夫をしている。加えて、管理者は日勤業務も行って、日頃から職員の意見や提案に耳を傾けている。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	案内している。				
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	定期的に行っている。				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	職員からの意見や提案等は、随時聴くようにしている。利用者本位の支援については、職員会議やユニット会で話し合っている。				
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組みしている。	○	全職員で取り組んでいる。				外部評価の自己評価は、職員やリーダーの意見を取り入れ、管理者が取りまとめて作成をしている。また、ユニット会議等を活用して、職員にサービスの評価結果を伝えるとともに、目標達成に向けて取り組んでいる。さらに、評価結果は、運営推進会議の参加メンバーや全ての家族に、書類などを送付して報告をしている。コロナ禍の収束後には、目標達成計画の取組み状況のモニターへの協力を、家族や参加メンバーに呼びかけて、意見をもらうなど、出された意見をサービスの質の向上に繋げられることを期待したい。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	前回の結果を踏まえて取り組んでいる。				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	コロナ感染対策対応で、施設内会議が開けなかった為、送付報告としている。	○	△	△	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	コロナ感染対策対応で、送付にて報告している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	マニュアルを作成し、職員全員が周知している。	/	/	/	法人・事業所として、災害マニュアル等を整備し、職員に周知している。年2回、昼夜を想定した避難訓練を実施している。また、事業所では、緊急時の対応や防災の勉強会を実施し、職員は災害時の対応等を学ぶことができています。法人内の施設や事業所と、災害発生時の協力支援体制を構築することができています。コロナ禍以前は、地域住民と一緒に合同の避難訓練を実施することもできていた。コロナ禍の収束後には、地域住民や家族に避難訓練の参加を呼びかけて、合同訓練の実施を再開したり、集合形式の運営推進会議等を活用して、災害などをテーマに話し合ったりするなど、より地域との協力支援体制の強化も求められる。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画している。	○	年に2回、日中と夜間を想定した訓練を行っている。	/	/	/	
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	定期的に行っている。	/	/	/	
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	×	コロナ感染対策の為、地域住民の方と話し合う機会も合同訓練も行っていない。	○	△	○	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	コロナ感染防止の為、地域を含めた災害対策の取り組みが行われておらず、火災を想定した施設内のみの火災訓練ですら消防職員の参加が得られていない。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	出来ていないが、今後、取り組む必要がある。	/	/	/	事業所では、入所相談を含めて、地域の高齢者等から相談が寄せられた場合には、管理者等が快く対応をしている。コロナ禍において、ボランティアの受け入れなどの協力は行っていない。コロナ禍において、市行政や地域包括支援センター等が主催する会議や研修に参加する機会は減少しているものの、法人内の他のグループホーム等と協力をしながら、連携を図ることはできている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	コロナ禍でもあり本年は、主に電話での相談支援を行っている。	/	/	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	本年は、コロナ感染防止の観点から、事業所を開放、活用していない。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	本年は、コロナ感染防止の観点から受け入れはしていない。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	×	地域活動に協働しながら行っていけるように努力していきたい。	/	/	○	

(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

#### II.家族との支え合い

#### III.地域との支え合い

#### IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 5 年 2 月 16 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 13名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	1名	

※事業所記入

事業所番号	3890600327
事業所名 (ユニット名)	グループホームあかね 2Fユニット
記入者(管理者) 氏名	一色 千子(菅 淑子)
自己評価作成日	令和 5 年 12 月 28 日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】</p> <p>グループホームあかねは、認知症のため日常生活に支障がみられるようになった方でも家庭に居るような雰囲気の中で、地域の皆様とも関わり合いながら、楽しい生活が送れるよう支援していきます。</p> <p>グループホームあかねは、お一人お一人の人格を尊重しながら役割を持っていただき、ゆくりでも自分の事が行っていけるよう支援していきます。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>①コロナ感染防止のため日常的な外出支援が出来ておらず、楽しみや気分転換が不足している → 車椅子ごと乗車できる福祉車両の購入を行い、車椅子の方の外出が可能となり、感染状況を確認しつつ少人数での外出が行えるようになったため、紅葉見学など季節を感じていただき、気分転換を図っている。</p> <p>②玄関出入口について、外からは自由に入れるが、中からはテンキーを操作しないと外に出られない → 時間設定をし、日中は玄関の自動ドアの電源を切り、自由に入出入りすることが出来る環境作りをしている。入所者が施設外に出る時には付き添い、安全に戻れるよう援助しています。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>市内西部にある旧東予市の中心部近くにある事業所は、区画整理をしている住宅や田園風景のある場所に立地している。2階にある大きな窓から、田園地帯や区画整理等でパワジョベルの工事の様子が見えるなどの見晴らしが良く、利用者や来訪者から好評を得ている。開設して6年目を迎える建物であるが、清掃や換気、整理整頓などの管理が行き届き、気持ちの良い状態が保たれ、快適な空間となっている。コロナ禍において、外出や面会などの制限が設けられているが、天気のいい日には事業所周辺を散歩したり、敷地内に出て外気浴をしたり、車いすでも乗れる福祉車両を購入し、少人数で紅葉の見物や初詣に出かけるなど、利用者が季節を感じながら、少しでも気分転換が図れるよう支援することができている。また、事業所には家族会が設置され、コロナ禍で参集形式の会は中止されているが、12月に郵送で報告を行う工夫も行われている。さらに、年1回利用者に好みのメニュー表や、「今からしてみたいことは何ですか?」のアンケートを項目のチェック形式で実施するとともに、家族に、「スタッフに支援してほしい事はありますか?」というチェック形式のアンケートを実施する工夫を行うなど、利用者や家族から意見を出してもらいながら、楽しみのある穏やかな生活が送れるよう支援している。</p>
--	---	---

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>I. その人らしい暮らしを支える</b>									
<b>(1) ケアマネジメント</b>									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	本人との会話だけでは把握しづらい思いや希望を、家族から詳しく聞く為のアセスメントシートに変更し、一層の意向の把握に努めている。	○	/	○	入居前に、利用者や家族には事業所を来訪してもらい、管理者等は面談を行い、思いや暮らし方の希望、意向などの聞き取りをしている。また、面談時には、利用者から思いなどを聞けないことが多いため、日々の生活の中で、担当職員を中心に、徐々に意向などを聞くよう努めている。さらに、把握した情報は、アセスメントシート等に記載し、職員間で情報の把握に努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	体操やレクリエーション、行事等に参加された時の表情や行動を見て楽しめているのかどうかを汲み取るようにしている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	家族が洗濯物を引き取りに来所された時や電話にての現状報告時等、場面場面で相談、話し合いをしている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	本人の意向を聞いて、記録し共有している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	△	周辺症状が見られた時、本人の思いも考慮するが、職員の思い込みや決めつけにより、対応してしまっている時がある。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入所前の情報収集シートを手直しし、収集内容を細かくする事で聞き取りが具体的になり、これまでの暮らしや現状の把握が行いやすくなっている。	/	/	○	入居前に、利用者や家族には事業所を来訪してもらい、管理者等は面談を行い、アセスメントシート等を活用して、生活歴や健康状態、精神・認知機能、ADLなどの聞き取りをしている。コロナ禍において、利用者が入院や施設に入所している場合には、面会や面談ができない場合が多く、日々の生活の中で、利用者から徐々に情報を聞き取るよう努めている。また、以前利用していた介護支援専門員から情報を聞くとともに、病院や施設の関係者から、サマリーや情報提供書などを提供してもらうこともある。さらに、把握した情報は、アセスメントシート等に記載し、職員間で情報の把握に努めるとともに、新たな情報は赤字で修正や追記を行うなど、定期的な情報を更新することもできている。加えて、より詳しい情報収集ができるように、アセスメントシート等の見直しを行い、ワクチン接種情報の項目などの追加や変更も行われている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	日常生活の関りから心身の状態の把握に努めている。また、3か月に1度及び状態の変化を感じた時に、ADLや精神面の評価を行い現状の把握に努めている。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	○	申し送りや生活記録で、日々の変化や違いを把握している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	カンファレンスや普段の申し送りなどで意見交換し、本人の意向や希望を検討している。	/	/	○	事前に、担当職員が利用者から意見を聞くほか、来訪時や電話連絡時を活用して、家族から意見や要望を聞いている。また、訪問診療等で医師から指示やアドバイスをもらっている。さらに、把握した情報やアセスメント情報、モニタリング情報をもとに、カンファレンスを活用して、計画作成担当者や担当職員を中心に話し合い、課題把握のほか、利用者本人の視点で、より良く暮らすためのサービス内容などを検討している。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	検討した内容に基づき、課題を明らかにし、介護計画を作成している。	/	/	/	
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人や家族から得た情報やその都度の希望や意向を、可能な範囲で日々の生活に取り入れている。	/	/	/	
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人の希望を尊重しつつ、家族の意見も取り入れた介護計画を作成している。	○	/	○	事前に、担当職員が利用者や家族から意見を聞くほか、訪問診療等で医師から指示やアドバイスをもらい、把握した情報をもとに、計画作成担当者が介護計画を立案して、カンファレンスを活用して、職員間で話し合い、計画を作成している。また、出された意見を尊重しながら、利用者や家族の意向が反映された計画となるよう努めている。
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	その方の状態に合わせた過ごし方が出来るように対応している。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	家族等の協力体制等は盛り込まれているが、コロナ下にて交流制限もあり、本年も地域の人達との協力体制が盛り込まれた内容にはなっていない。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	介護計画を個人のカルテに挟んで、職員間で共有している。	/	/	/	○ 担当職員等は、カンファレンスに参加して、介護計画の内容の把握に努めるとともに、個別のファイルをスタッフ室に置き、職員はいつでも確認できるようにしている。また、生活記録に利用者の状況等を記載するほか、#と番号を記載して、生活記録等に計画に沿ったサービス内容を記録を残すとともに、夜間は赤字で記載して、分かりやすくしている。さらに、職員間で統一した記録が残るように、生活記録の記入方法を勉強会を実施することによって、今後は、介護ソフトの記録様式等の導入を見越して、法人本部と協力をしながら、徐々に職員間で検討していくことも期待される。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	生活記録に実施した内容を記録している。月1回モニタリングを職員間で行い、状況を確認し日々の支援につなげている。	/	/	/	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	入所時は、約1か月の暫定プランを立案している。その後は、毎月、モニタリングを実施し、6か月おきに、計画を立て直している。	/	/	/	○ 介護計画は、6か月に1回見直しをしている。入居後は、暫定の介護計画を作成し、約1か月で見直しをしている。また、計画作成担当者を中心に、生活記録等で利用者一人ひとりの現状を確認して、モニタリングを実施することができている。さらに、入退院など、利用者の状態の変化が生じた場合には、家族に連絡を行い、現状に即した介護計画の作成をしている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	毎月モニタリングを行い、現状確認を行っている。	/	/	/	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	変化が見られた時は、職員間で話し合う場を持ち、現状に合った支援を行っている。変化の状況を家族にも連絡している。現計画が実施できない場合は、新たな計画を作成している。	/	/	/	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	毎月第4金曜日に、職員会議・ユニット会議・カンファレンスを行っている。緊急案件は出動している職員で話し合い、出動していない職員には申し送りをするようにしている。	/	/	/	○ ユニット会議は各ユニットに分かれて、毎月第4金曜日の17時30分から1時間程度、同時並行で開催しており、その日の運出や夜勤を除く、より多くの職員が参加できるよう工夫をしている。また、会議終了後に、夜勤や運出の職員に、会議の情報伝達をするとともに、参加できなかった職員には議事録を作成し、確認してもらうことができている。以前は、全体の職員会議をユニット会議の前に実施することができていたが、コロナ禍において開催を自粛しており、管理者は、隔月で順番にユニット会議に参加し、指導や情報伝達などを行っている。さらに、緊急案件のある場合には、その日の出勤者で話し合いをしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	会議では、自分の考えを言ったり、思いを伝えたりする等、意見交換が出来ている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	○	開設日時を固定し、職員にはその日は予定を入れないように伝えている。出席できなかった職員が会議の内容が分かるように議事録を作成している。	/	/	/	
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	早出・日勤・運出・夜勤と業務に入る前の申し送りや申し送りノートを活用し、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。	○	/	/	○ 日々、職員の出勤時には口頭で申し送りを実施している。また、職員は出勤時に、申し送りノートや業務日誌、生活記録などの確認を行い、確認後にはサインを残し、確実な申し送りに繋げている。時には、伝達漏れがある職員も見られ、管理者やリーダーは申し送りノートなどを確認するよう指導している。
<b>(2) 日々の支援</b>									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	入所者とのコミュニケーションの中でしたい事を聞き、出来る事は叶えるように努めている。	/	/	/	○ 高齢化等に伴い、その日にしたいことなどをいう利用者は少なくなってきている。飲み物や着る服、レクリエーションなど、職員は利用者へ声をかけ、自分で選択ができるよう支援している。また、事業所では、多くの行事を取り入れたり、近隣の飲食店からの宅配や弁当を購入して美味しく食べたり、外出時に景色を見るなど、楽しみのある生活や生き生きとした表情が見られるよう支援している。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくらせている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	水分補給時の飲み物や着替える衣類など、自分で選択し決めて頂いている。	/	/	/	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのベースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	一応、施設の日課を基本としているが、入所者一人一人の希望やペースで生活が送れるように支援を行っている。	/	/	/	
		d	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うろたえ等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	楽しく過ごせるように、表情を見ながら声掛けを行うように努めている。	/	/	/	
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らしができるよう支援している。	○	表情や態度を見ながら、本人の意向に沿った生活が出来るよう支援している。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、自立たずさりがない言葉かけや対応等)	○	職員会議で話し合ったり、普段の業務の中でも職員間で注意し合うなど、常に意識して行動している。トイレ誘導の際は小声で耳元で話しかけるなど、入所者への配慮を心掛けている。トイレ誘導の際は、小声で耳元で話しかけるなど、入所者への配慮を心掛けている。	○	○	○	○ 職員は、人権や尊厳などを勉強会で学び、常に意識した対応をしている。トイレ誘導時には、職員は利用者の耳元で小声で話しかけるよう心がけている。時には、大きな声を出してしまう職員も見られるため、管理者等は該当職員に指導や注意喚起をしている。また、居室をプライバシーのある空間と認識し、入室時に職員はノックや声かけをして、利用者の返答が購入してから入室するとともに、不在時にも、事前に利用者へ「清掃で入ります」などの声をかけ、了承を得た上で、入室することができている。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	不安や羞恥心が和らぐような声掛けを行い、プライバシーに配慮した介助を行っている。	/	/	/	
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室を訪室する際は、扉をノックして声掛けをして、返事を聞いてから扉を開けるようにしている。	/	/	/	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	職員会議でプライバシーの保護や個人情報漏洩について話し合い、理解し遵守している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	職員も、入所者の方から教えて頂く事や助けて頂く事も多くあり、感謝の気持ちを述べるなど、互いに感謝し合える関係を心掛けている。				洗濯物たたみや清掃、野菜の皮むき、食事の後片づけなどを手伝ってもらったり、俳句の季節などを教えてもらったりした場合には、職員は利用者へ感謝の気持ちを伝えている。また、車いすを他の利用者が押ししたり、利用者同士で励ましの声かけをしたりするなどの助け合う場面も見られ、職員は見守りをしている。さらに、職員は利用者同士の関係性を把握し、配席などの考慮をしている。時には、耳の遠い利用者が聞こえておらず、言い合いなどのトラブルになることも見られるため、職員は早期に間に入ったり、場所に移動して話を聞いたりするなど、周りの利用者に不安や支障が生じないような対応をしている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	入所者同士が助け合ったり、支え合ったり出来るように取り組んでいる。				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	○	入所者の生活や入所者同士の関係性を把握し、トラブルがないように配慮している。話好き入所者を中心に、入所者同士が会話出来るように配慮したり、座る位置なども考慮している。				
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	職員が間に入り、当事者から話を聞いたり、落ち着くまで居室で過ごして頂くなど、他の入所者に不安や支障が生じないように心掛けている。				
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	アセスメントや本人、家族から聞いた人間関係を把握、また普段のコミュニケーションの中で知りえる事を把握している。				
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていったりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	ドライブに出かけた際などに、馴染みの場所を通ったりする事はあるが、コロナ禍の為知人や友人等に会いに行ける支援は行っていない。				
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	密を避けてドライブに出かけたり、館外への散歩を行ったりしているが、時間は入所者の希望時に添えていない時がある。	○	△	○	コロナ禍において、事業所では外出できる機会が減少しているが、天気の良い日には、事業所周辺を散歩したり、敷地内で外気浴をしたりすることができている。前回の外部評価から、目標達成計画で外出支援に取り組んでおり、法人・事業所として、車いすでも乗れる福祉車両を購入し、少人数で紅葉を見に行ったり、初詣に出かけたりするなど、利用者が季節を感じながら、少しでも気分転換が図れるよう支援することができている。また、母体病院の受診時は、管理者が同行支援するほか、専門医の受診は家族に同行をお願いしている。また、外食等ができない代わりに、近隣の飲食店の宅配や弁当を注文したり、事業所内でできる多くの行事を取り入れたりする工夫をしている。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	コロナ感染対策の為、職員以外の協力を得ての外出は行っていない。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	認知症に関する研修に参加したスタッフより、内容報告の機会等を利用した勉強会を行っている。また、問題に直面した時、相談し合って一人一人のケアにあたるように努めている。				事業所では、勉強会で認知症の行動や心理状態などを学ぶとともに、実践者研修に参加した職員が伝達の勉強会を実施するなど、職員の理解促進に努めている。中には、新入職員もおり、認知症などの行動を理解していない場合も見られるため、管理者やリーダーはその都度の指導をしている。また、散歩のほか、いすに座ってできる体操やDVDを見ながらごぼう体操を取り入れるなど、利用者の心身機能の維持が図れるよう支援している。さらに、事業所では、利用者自身にできることはしてもらい、職員は見守りのほか、できない部分や間違いに対して、声かけや介助をしている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	マニュアルを参考に、身体面の機能低下の特徴を理解し、日常生活の中で残存機能の活用に取り組んでいる。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	本人の行っている事を見守り、出来てない事や違っている事に対して、声掛けをしたり、介助をしたりしている。	○		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	習字や生け花等、出来るだけ希望に沿い楽しんで頂いている。また、朝の掃除や食器拭き、タオルたたみ、役割となってされている事を把握している。				朝の清掃や洗濯物たたみ、野菜の皮むき、食事の盛り付けなど、職員は利用者一人ひとりに役割や出番を担ってもらえるよう支援している。また、清掃や洗濯物たたみを日課のようにしてくれている利用者もいる。さらに、高齢化や認知症状の進行により、できることは少なくなってきたり、作品づくりの際に貼り付けなどをしてもらったり、小さなタオルをたたんでもらったりするなど、少しでもできる役割を担ってもらえるよう努めている。加えて、習字や生け花、俳句など、利用者の希望に沿って、可能な範囲で趣味や好きなことなどを継続できるような支援にも取り組んでいる。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごすように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	本人の現在のレベルを把握し、出来る事はして頂くように取り組んでいる。	○	○	○	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つとらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	全職員が把握している。				毎朝、自分で服を選んで着替え、整容を整えることのできる利用者もいる。また、電気シェイパーを職員が渡し、利用者にてできる部分の髭剃りをしてもらうとともに、剃り残しの確認や仕上げなどの支援をしている。さらに、服装などの整容の乱れや汚れも見られる場合には、職員は利用者のプライドを傷つけないように、さりげなくフォローするとともに、必要に応じて、居室に移動して着替えてもらうこともある。加えて、月1回、訪問内容の来訪もあり、利用者の好みの髪型に散髪をしている。	
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	一緒に着替えを選んだり、髪形などは、本人に聞きながら整髪したりする支援をしている。					
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	二者択一にして聞いて掛けたり、表情を見たりして、本人の気持ちに沿うように努めている。					
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しむよう支援している。	○	季節や気温、行事に合わせた服装を着るように支援している。					
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	本人が傷つかないような声掛けをし、着替え等の支援を行っている。	◎	○	○		
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	×	コロナ感染対策の為、外部での理美容は行っていない。					
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	本人らしさが保てるように支援している。					○
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	理解している。				法人・事業所として、業者と契約を行い、管理栄養士がバランスの取れた献立で、湯煎する食品などを配達され、朝夕の食事は各ユニットのキッチンで、炊飯やパン、汁物などを準備するとともに、盛り付けて利用者へ食事を提供している。昼食は近隣の食堂におかずを用意してもらったほか、月2回程度の行事等の際には、お弁当を購入したり、近隣の飲食店に宅配してもらったほか、食事が楽しめるような工夫もしている。利用者には、玉ねぎの皮むきや食事の盛り付け、下膳、後片づけなどの手伝ってもらっている。また、利用者と一緒におやつ作りを行うこともある。アレルギーのある利用者は現在いないが、苦手な食材のある場合には、代替品を用意するなどの対応をしている。食器類は、入居時に利用者を使い慣れた物を持ち込んで使用することもできるが、ほとんどの利用者は、事業所で用意した使いやすい物を使用している。食事の際に、ほとんどの利用者は自分で食事を摂ることができ、職員は見守りのほか、必要に応じてサポートしている。コロナ禍において、食事は利用者とは別々に摂っており、利用者の食後に、職員は休憩時間等を活用して、順番に食事を摂るようになっている。利用者の状態に合わせて、刻み食などの食の形態にも対応している。リビングに面したオープンキッチンで、炊飯や盛り付けなどを行っており、利用者は食事の音や匂いを感じるとともに、食事が待ち遠しくなるような雰囲気づくりに努めている。さらに、年1回、利用者メニュー表を提示して、ご飯物や麺類、鍋物、メインのおかずなど、好きな物にチェックを入れてもらうなどの嗜好の調査を行うこともできている。加えて、食べ残しがある場合に、職員から原因を聞くほか、定期的に、法人内の管理栄養士からアドバイスをもらうこともできている。職員は、利用者と同じ物を食べていないため、業者の宅配サービスなどを利用していても、定期的に職員が検食を兼ねて、利用者がどのような物を食べているかの把握を行い、業者等に意見や要望を伝えることも期待される。	
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	コロナ禍の為、食材選びの外出等行っていない。食べ残されている時、本人に理由を聞く等してそれを参考にし献立づくりに生かしている。野菜の皮を剥いたり、盛り付けや片付け等を一緒にやっている。					○
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	コロナ禍の為、利用者と共に買い物に行っていない。後片付け、盛り付け等を続けて行うことで役割を感じてくれていて自信や達成感に繋がっている。					
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	入所前のアセスメントや日常生活の中で把握している。					
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって音づかいのものを取り入れている。	○	入所者の好みや苦手なもの、アレルギー等は把握している。季節感を感じさせる旬の食材や、入所者にとって懐かしい物等を取り入れている。					○
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法として、おいしいそう盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	盛り付けや器の工夫をしている。刻み食にした場合も色どりの工夫をしている。					
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	食事の際は、使いやすい物を施設が提供し使用してもらっている。本人や家族からの要望は無いが、希望があった際は意志を尊重していきたい。					○
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	食事摂取中の一人一人の見守りやサポートは行っている。毎食は、食卓を一緒に囲んでないが、週に1回及び行事の時等は、一緒に食事をしている。					△
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	入所者の過ごされているフロア近くで調理をしており、食事が待ち遠しく美味しく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。			○		○
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	一人一人の状態に応じた食事や水分摂取量が確保できるように努めている。					
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	食事や水分摂取量が少ない時は、好きな食べ物や飲み物を提供したり、時間をかけて再度提供したりの工夫をしている。					
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	肉や魚等偏らないように1週間ごとの献立表を作成している。また、定期的に法人内の管理栄養士のアドバイスを受けている。					○
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	調理用具の消毒や新鮮な食材の使用など、衛生管理に努めている。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	全職員が理解している。	/	/	/	事業所では、定期的には歯科医や歯科衛生士から指導を受けて、職員は正しい歯磨きの仕方、口腔ケアの重要性を理解している。現在は、歯科衛生士等の指導は休止状態となっている。時には、昼食前に、口腔体操をすることもある。毎食後に、職員は利用者へ声をかけて、洗面台で口腔ケアを行い、必要に応じて、見守りやサポートをしている。利用者から、口腔内の確認や痛みなどの訴えを言うてくる利用者もあり、自分で歯磨きをしている利用者を含めて、定期的に、全ての利用者の口腔内の状況を把握することができている。また、訴えや虫歯などの異常が見られた場合には、歯科医の受診に繋げている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	△	利用者個々の、口の中の健康状況を確認出来るようになってきている。	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	△	協力歯科医院歯科衛生士の定期指導が始まり、正しい口腔ケアの方法を学ぶ事が出来、日常の指導に活かしている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	個々の能力を見て支援している。月・金曜日は、ポリドントを実施している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	○	毎食後、口腔ケアの声掛けや支援を行い、記録をしている。協力歯科機関と契約しており、状態に応じ往診して頂いている。	/	/	○	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	理解している。	/	/	/	事業所では、紙パンツを使用している利用者が多い。中には、パッドの使用を工夫しながら、声かけをすることにより、布パンツで過ごすことのできている利用者もいる。また、記録で利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して、職員は利用者がトイレで排泄できるように、声かけやトイレ誘導などの支援をしている。さらに、排尿の量が多いなどの状況に応じて、利用者がパッドや紙パンツなどの排泄用品の使用時には、家族に相談するとともに、職員間で適切な用品の使用を話し合い、家族に確認の上で、使用をしている。加えて、乳酸菌飲料や水分補給をするほか、運動や食物繊維の多い食品を取り入れるとともに、必要に応じて、軟便剤を使用するなど、利用者にならぬ排便が行えるよう取り組んでいる。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	理解している。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	毎日、記録を取り排泄パターンの把握に努めている。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々々の状態にあった支援を行っている。	○	日中は全入所者トイレで排泄して頂いている。おむつ類も、一人一人の状況にあった物を使用するように努めている。	◎	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	水分摂取量や活動量、食事などの改善に向けた取り組みを行っている。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	個々の排泄パターンに合わせた早めの声掛けやトイレ誘導に努めている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	本人・家族・職員で話し合い、本人が納得した上で使用開始するように努めている。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	入所者の状態にあった下着やおむつを使い分けしている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	食物繊維を多く含んだ食品やイーージーファイバーを提供したり、体操をしたりして便秘解消に取り組んでいる。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	△	普段の入浴日は決まっているが、時間帯や長さ、温度等は出来る限り本人の希望に沿うように努めている。入浴を拒まれたりした時は次の日にしたりしている。また、訪問美容の後は、入浴できるように考慮している。	◎	/	○	利用者は、週2回入浴することができる。脱衣場には、電気ストーブを置き、利用者が大きな温度差を感じずに入浴できるよう工夫している。また、各ユニットで、午前の時間帯に2名、午後の時間帯に1名の入浴支援と決めているものの、体調管理を行いながら、湯の温度や湯船に浸かる長さなど、可能な限り利用者の希望に沿った柔軟な支援に努めている。現在は、入浴を拒む利用者はおらず、喜んで入浴してもらっている。さらに、シャンプーなどは事業所で用意した物を使用しているが、ボディソープは、入浴後もしっかりと肌触りの良い物を使用しており、すべすべとした肌触りとなり、利用者にも喜ばれている。加えて、季節が感じられるように、ゆず湯などに対応することもある。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	一人ずつ入浴し、入所者の方のペースに合わせた入浴が出来ている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	マンツーマン対応で安心して入浴して頂いている。また、出来る事は自力で頂き、出来ない所のみ介助を行っている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	原因や理由を理解し、後日に入浴を回したりしている。渋る方がいる時は、話を聞きながら間を置くこと入浴できている、無理強いすることも無い。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	毎朝、全入所者のバイタル測定の実施や表情等の様子を見たりしての健康状態の確認を行っている。入浴後の状態も確認している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	把握している。				事業所には、眠剤などの服薬をしている利用者もいるが、医師に報告や相談を行うとともに、日中に服薬の影響が残らないように、減薬などの調整をしている。中には、新しく入居した利用者が、環境の変化等で夜間に眠れないこともあり、職員と一緒に、ホールでお茶を飲んで過ごしてもらい、うとうとしたタイミングで居室へ誘導を行い、眠ってもらうなどの対応をすることもある。また、昼夜が逆転しそうな利用者には、日中にできるだけ起きて過ごしてもらうほか、外気浴や体操、散歩などを取り入れながら、職員は夜間に良眠できるよう支援している。さらに、不眠が続く場合には、利用者の体調面を考えて、医師に相談を行い、服薬に繋がる場合もある。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	昼夜逆転傾向の入所者の方などに対しては、日中出来るだけ起きて頂けるように取り組んでいる。				
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	訪問診療時やそれ以外でも利用者の状態に変化があれば相談し支援を行っている。				
		d	休息や昼寝等、心身を休める場が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	昼夜逆転傾向の方でない入所者に対しては、本人の希望に沿うように取り組んでいる。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	希望時に、対応や支援をしている。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	出来る事はして頂き、出来ない所のみ援助している。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	早朝や夜間以外は、出来るように配慮している。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	本人に手渡し、読めない場合は頼読している。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	全入所者の家族にお願いしている。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	理解している。				
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	本年は、コロナ対策の観点から、理解や協力を得る働きかけを行っていない。				
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	入所者の希望に応じ、家族と相談しながらお金の所持や使用を支援している。				
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	金額や使い方について、話し合っている。				
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	金銭管理が出来ない入所者に対しては、必要時に家族に連絡し、お金を持ってきて頂いたり、物品を購入して頂いたりしている。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	コロナ禍ではあるが、感染対策に留意して、行きつけの美容院へ行きたいの希望や病院受診の希望等、ニーズに応えている。	○	○	コロナ禍において、事業所には外出や面会などの制限が設けられ、利用者や家族からの要望は少なくなってきたものの、可能な範囲で柔軟な対応に努めている。また、専門医の受診は家族にお願いをしているが、母体病院の受診は、管理者等が同行支援の対応をしている。	
<b>(3) 生活環境づくり</b>									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	時間を決め自動ドアは解除し、内外へ気軽に出入りできるように工夫している。	○	◎	○	事業所周辺は田園地帯に囲まれ、事業所前に広い駐車場を整備し、家族等が来訪しやすいようになっている。また、幹線道路等には大きな事業所案内の看板が設置され、車の来訪をしやすくしている。さらに、玄関周辺は、すっきりと整理整頓が行われているほか、広い敷地が確保されている。コロナ禍において、来訪者は少なくなっている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていない等。)	◎	共有の空間は家庭的な雰囲気を有している。また、季節に合った装飾を行っている。	○	○	◎	開設して6年目を迎える建物であるが、清掃や換気、整理整頓などの管理が行き届き、気持ちの良い状態が保たれ、快適な空間となっている。明るい共用空間には大きな窓が設置され、田園地帯や区画整理等でパーショベルの工事の様子が見えるなどの見晴らしが良く、利用者や来訪者から好評を得ている。また、ガラス窓やホールの壁などには、筋分などの飾り付けや行事の写真、ぬり絵、日めくりカレンダーなどが飾られ、季節を感じられるようになっている。さらに、食事スペースを兼ねた広いホールには、ソファやテーブル席を多く設置され、利用者は思い思いの場所で過ごせるようになっており、仲睦まじくテレビを見ている様子も見られた。加えて、ホール内にはオープンキッチンが設置され、職員は利用者の様子を見渡ししながら、食事の用意をすることもできる。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	毎朝、掃除が出来る入所者と一緒に、共有の場や居室の掃除を行っている。	/	/	◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	時期ごとに、装飾を変えたり、行事をしたり、食べ物を提供したりと、季節感を感じ居心地よく過ごせるように工夫している。	/	/	◎	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	談話室で思い思いに過ごして頂いたり、居室で好きなように過ごしたり出来るように工夫している。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	居室内であれば、危険な物以外は希望される物を持ってきて頂き、居心地よく過ごせるようにしている。	◎	/	○	居室には、ベッドやエアコン、タンスが備え付けられている。また、家族の写真や遺影、写真ボードなどを持ち込むことができる。衣替えを家族に手伝ってもらうこともあり、すっきりと片付けられている居室も多い。誕生日のお祝いを使用した大きなメッセージのほか、自分で書いた習字の作品なども飾られている。さらに、転倒の恐れのある利用者の居室には、床にクッション材を敷き、転倒の衝撃をやわらげている居室の工夫も見られた。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	トイレの場所等、わかるように文字を大きくしたりして、自立した生活が送れるように配慮し、不安や失敗を招くような物品に関しては職員間で検討し、家族と話し合い持ち帰って頂く等、工夫している。	/	/	◎	居室の入り口には、表札や飾り付けを行い、利用者が認識しやすいうようにしている。中には、目が見えにくい利用者が、日中に自分の部屋を迷う場面も見られ、職員が誘導することもある。また、建物はバリアフリー構造で、廊下やホールも広く、車いすや手押し車を使用している利用者にも動線を確保することができている。さらに、トイレなどには大きな分かりやすい表示が行われている。
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	協力医療機関との連携を図り、いつでも相談できる体制をとっている。	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていること、異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	○	理解している。日中は鍵をかけないように工夫している	◎	x	○	職員は勉強会等で学び、鍵をかけることの弊害を理解している。事業所は建物の構造上で、外からは自由に入れるものの、中からはテンキーで解除できるようになっているが、前回の目標達成計画に掲げて、日中に自動ドアの電源を切り、玄関のドアの開閉は重たいが、自由に利用者が外出できる環境となるよう工夫をしている。夜間は防犯のため、19時30分から7時頃まで、玄関の施錠をしている。以前、利用者が一人で外出し、早期に発見して大きな騒ぎにはならなかったものの、ユニットの入り口にセンサーチャイムを取り付けて、利用者や来訪者の出入りを職員に分かりやすくしている。また、外出しようとする利用者には、職員が見守りをするともに、一緒に外に出て、散歩をするなどの対応をしている。コロナ禍において、来訪者にはインターホンで対応するようになっている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	家族の理解を図っている。	/	/	/	
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	把握している。	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	全職員、異常時、早期発見できるように注意しながら業務をしており、変化は生活記録に記録している。	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	、協力医療機関との連携を図り、いつでも相談できる体制をとっている。	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	本人や家族の希望に沿った対応や支援をしている。	◎	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	本人や家族の希望に沿った対応や支援をしている。	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	その都度、本人や家族と話し合っている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	情報提供を行っている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	コロナ禍の今年は、入院後は、電話にて定期的に情報交換を行っている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	得た情報や気づきを、施設の看護師に伝達相談が出来る。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	24時間、連絡相談が出来る体制が出来ている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできる体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	状態変化に応じた支援の体制が出来ており、状況に応じ協力医療機関への受診の支援を行っている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	服用中の薬の内容プリントをカルテに綴じ、確認できるようにしている。また、普段と様子が違った場合など記録し情報提供を行っている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	飲み忘れや誤薬なく服薬できるように、個別の薬ケースを作る等、取り組んでいる。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	普段と変わった事がないか、日常的に気を付けている。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	状態の変化の段階ごとに本人や家族と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。				事業所では、「重度化した場合の対応に係る指針」を整備しているが、開設時から看取り支援は実施しておらず、入居前に家族等に説明を行い、理解を得た上で入居してもらっている。また、母体病院の訪問診療のほか、緊急時の入院対応も可能となっており、利用者や家族、職員には安心感もある。さらに、状態の変化が見られた場合には、医師から家族に説明してもらうとともに、医師や関係者を交えて話し合い、方針を共有している。事業所では対応可能な限り、利用者に生活を送ってもらえるよう支援しているものの、医療行為のほか、食事が食べられなくなったり、浴槽を跨げなくなったりした場合などには、病院や他の施設へ転院をしてもらっている。さらに、急変時には、救急搬送の対応をとっている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	方針を共有している。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	×	終末期の対応が、現在の所ない。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	入所前に説明し、理解を得てから入所して頂いている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々より良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	連携を図りながら支援していく体制を整えている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族への心理的支援を行っている。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	法人勉強会及び施設の勉強会で定期的に学んでいる。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	各感染症に対するマニュアルを作成しており、発生した場合、手順に沿った対応が出来るよう、勉強会時に練習している。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	○	情報を取り入れ、情報共有し随時対応している。				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	職員・入所者は徹底している。来訪者に対しても、各ユニットの入り口に、消毒液やマスクを用意し、協力の張り紙をしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
<b>II. 家族との支え合い</b>										
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	職員と家族とで支えていける関係が築けるよう努めている。				コロナ禍以前は、新年会や誕生日会、敬老会、クリスマス会などの行事の際に、家族の参加を呼びかけて、交流を図ることができていたが、コロナ禍において、家族の参加できる行事の開催は中止している。また、事業所には家族会が設置され、コロナ禍で参集形式の会は中止されているが、12月に郵送で報告を行い、職員の状況や入所者の情報、事故・ヒヤリハット報告、行事報告、消防訓練、外部評価などの情報を伝える工夫もしている。外出や面会などの制限が設けられ、事業所では、家族との窓ガラス越しの面会にも対応をしている。担当職員等は、来訪時に利用者の近況を家族に伝えるほか、気軽に意見を言ってもらえるように伝え、意見や要望を聞くようにしている。さらに、毎月、行事予定やあかね通信を送付するほか、年4回法人から機関紙「ほのぼの」を送付して、事業所の出来事などを伝えている。加えて、利用者一人ひとりのアルバムが整備され、来訪時に家族等に見てもらい、利用者の事業所内の様子分かるようにしている。	
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	×	本年は、コロナ感染症対策の為、家族が活動に参加できる機会は無かった。	○		△		
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たよりの」発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	コロナ禍で来訪者は少ないが、来訪時には日常の様子を具体的に伝えている。また、全家族には毎月行事予定やあかね通信の送付を行っている。	◎		○		
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	より良い関係が築いていけるように努めている。					
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	その都度報告し、理解や協力が得られるようにしている。	○		○		
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	入所前に、入所者本人のリスク説明を行い、その人らしい生活が出来るように話し合っている。					
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	本年は、コロナ感染症対策のため家族が気軽に訪れる状況ではなかったが、来訪時に様子を伝えるなどして関係を築き、家族が職員に気軽に伝えたり過ごせるように取組み、常に居心地よく過ごせるような雰囲気づくりを心掛けている。			○		
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	理解、納得を得てから、名前や印を頂いたき、変更があった場合は、文章による通知や説明を行い、同意を得ている。					
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	家族に説明し、話し合ってから、納得して頂いてから、退所先への支援もしている。					
<b>III. 地域との支え合い</b>										
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域、事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	×	本年はコロナ禍にて、地域の方に向けてのアピールを行っていない。		◎		コロナ禍以前は、地域の秋祭りや盆踊り、運動会に利用者と一緒に参加したり、楽器演奏のボランティアが来訪したり、事業所で夏祭りを実施して、家族や近隣住民に参加してもらうなど、交流を図ることもできていた。また、コロナ禍において、外出や面会の制限が設けられ、地域住民と交流できる機会は減少しているが、事業所周辺の散歩時に、挨拶や会話を交わすほか、近隣の家の改修時等に、敷地内に車を置いてもらうなどの交流を継続することもできている。また、地域の消防団が、今年の標語をポストに入れてくれ、職員等への火災等の啓発にも役立っている。	
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	×	本年は、コロナ感染症対策の為地域間の交流の機会は無く、関係を深める事が出来なかった。		○	○		
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	×	現状維持で、増えていない。					
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	本年はコロナ禍にて、立ち寄る事は無い。					
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	×	本年はコロナ禍にて、日常的なおつきあいは出来ていない。					
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	本年はコロナ禍にて、施設外の方との交流は行っていない。					
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	×	本年はコロナ禍にて、周辺地域の諸施設と関係が深まる取り組みは行っていない。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人の参加がある。	×	コロナ感染対策の為、本年は参加しての推進会議を開催していない。	○	/	△	コロナ禍において、運営推進会議は書面開催となっていたが、外部からの参加は難しいものの、最近の会議は、利用者や管理者、事務職員等が集合形式で、食事の話などをするようになってきている。また、会議資料は、全ての家族のほか、会議の参加メンバーに送付を行い、一部の家族等から意見をもらうこともできている。さらに、会議では利用者の状況のほか、事故・ヒヤリハット報告や行事報告、現協会の状況などを報告することができている。加えて、サービスの評価結果は、参加メンバーや全ての家族に資料を送付して、報告することができている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	△	評価の結果や取り組み状況について、議事録を書面で報告し、議事録についての感想や質問をアンケートの形で頂きお答えしている。内容については、全てホームページに掲載している。	/	◎	○	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮工夫をしている。	×	本年は、コロナ感染対策対応の為、推進会議を行っていない。	/	/	○	
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	各ユニットに理念を表示し、理念に基づいた会合を行うよう取り組んでいる。	/	/	/	/
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	地域の人達には伝わっていない。	○	×	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的に運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	管理者や職員の能力を把握し、研修を受けられるよう取り組んでいる。	/	/	/	法人が大きいため、医師である代表者の来訪ではないものの、定期的に法人の事務長等の来訪があり、管理者等から報告を受けている。月1回第2水曜日に、法人の運営会が開催され、管理者が出席して、職員から出された意見を代表者等に伝えることもできる。事業所として、年間の勉強会の計画を立てて、月1回テーマを決めて、職員が資料を順番に作成して報告等をするのと同時に、外部研修に参加した際には、他の職員に伝達報告を行うなど、職員のスキルアップにも努めている。動画配信の研修を活用して、職員は受講することもある。新入職員の入社時には、管理者は職員への指導をするのと同時に、1、3、6か月で個別面談をするなど、職員育成や定着にも取り組んでいる。また、介護福祉士などの資格の取得や外部研修の参加への支援もあり、介護福祉士の資格を取得している職員も多い。さらに、管理者は職員に小さなことでも意見をだしてもらおう伝えて、気軽に相談に応じるなど、話しやすい雰囲気づくりに努めている。コロナ禍以前は、親睦会などを実施することもできていたが、現在は中止されている。加えて、法人・事業所として、働きやすい勤務体系も整備されており、暦どりの休日数も確保され、希望休や有給休暇の取得をしやすくするなどの環境も整備されている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるように取り組んでいる。	○	心肺蘇生の練習や勉強会等、職員がスキルアップするように取り組んでいる。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	努めている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	×	本年は、コロナ感染対策対応の為、交流機会を持つ事はなく相互研修等の活動を通しての職員の意識を向上させていく取り組みは行っていない。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	普段から意見を交わし合える環境を作っている。	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	○	勉強会を行い、理解している。不適切なケアが行われえていないか、職員間で注意し合い、法に基づく手順も理解している。	/	/	○	事業所には、虐待防止委員会や身体拘束等適正化委員会が設けられ、虐待防止マニュアル等を整備して、3か月に1回委員会を開催して、職員間で話し合うとともに、定期的に虐待防止の勉強会を実施し、職員は理解をしている。また、虐待の芽チェックリスト(入所施設版)を活用して、職員一人ひとりの振り返りも行われている。時には、耳の遠い利用者にも、職員が大きな声を出したり、トイレの誘導時にあからさまな言葉を発したりすることも見られるため、不適切な言動を発見した場合には、職員同士で注意し合うとともに、管理者やリーダーが該当職員に確認を行い、指導や注意喚起をしている。さらに、管理者等は職員の疲れやストレスに気を配るとともに、年1回ストレスチェックを実施している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返り話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	職員会議やユニット会で話し合ったり、随時、話し合える環境を作っている。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	希望者には、外部のストレスチェックを依頼する等、職員の現状把握に努めている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	資料を作成し、職員会議で伝えている。	/	/	/	/
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	随時、職員間で話し合っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	出来る限り身体拘束を行わないよう取り組んでいる。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	○	勉強会にて制度等についての理解を深め、相談があった場合は説明、支援を行っている。				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	連携体制が出来ている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルを作成し、職員全員が周知している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	定期的に訓練を行い、現場で活かしている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	職員会議やユニット会で報告し、対策等を話し合っている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	普段から話し合い、事故防止に取り組んでいる。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	適宜対応している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	速やかに対応し、必要と思われる場合は、市にも相談・報告をする体制をとっている。本年は、苦情は寄せられていない。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	本年、事例は無いが、事例があった場合の対応について、速やかな回答・納得を得ながら前向きに話が進むよう話し合いをする事を基本にしている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	本年は、運営推進会議は書面であったが、相談窓口、意見箱の設置等いつでも伝えられる環境を作っている。	○		○	日々の生活の中で、職員は利用者から意見を聞き、可能な範囲で対応をしている。管理者は、家族に気軽に意見を言ってもらえるように伝えており、来訪時や電話連絡時に、担当職員等は意見や要望を聞くよう努めているが、意見は少なくなっている。また、重要事項説明書には、相談窓口や意見箱の設置がフローチャートで分かりやすく記載して、意見を出してもらいやすい体制を整備しているが、コロナ禍において、家族の来訪する機会が少なく、窓口や意見箱への意見は出されない状況となっている。さらに、年1回利用者「今からしてみたいことは何ですか」のアンケートを実施して、事前に提示した項目にチェックを入れてもらうとともに、家族に、「スタッフに支援してほしい事はありますか」などのアンケートを実施して、少しでも意見を出してもらえるよう工夫をしている。加えて、管理者は日勤業務も行って、日頃から職員の意見や提案に耳を傾けている。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	案内している。				
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	定期的に行っている。				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	職員からの意見や提案等は、随時聴くようにしている。利用者本位の支援については、職員会議やユニット会で話し合っている。				
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	全職員で取り組んでいる。				外部評価の自己評価は、職員やリーダーの意見を取り入れ、管理者が取りまとめて作成をしている。また、ユニット会議等を活用して、職員にサービスの評価結果を伝えるとともに、目標達成に向けて取り組んでいる。さらに、評価結果は、運営推進会議の参加メンバーや全ての家族に、書類などを送付して報告をしている。コロナ禍の収束後には、目標達成計画の取組み状況のモニターへの協力を、家族や参加メンバーに呼びかけて、意見をもらうなど、出された意見をサービスの質の向上に繋げられることを期待したい。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	前回の結果を踏まえて取り組んでいる。				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	コロナ感染対策対応で、施設内会議が開けなかった為、送付報告としている。	○	△	△	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	コロナ感染対策対応で、送付にて報告している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	マニュアルを作成し、職員全員が周知している。	/	/	/	法人・事業所として、災害マニュアル等を整備し、職員に周知している。年2回、昼夜を想定した避難訓練を実施している。また、事業所では、緊急時の対応や防災の勉強会を実施し、職員は災害時の対応等を学ぶことができています。法人内の施設や事業所と、災害発生時の協力支援体制を構築することができています。コロナ禍以前は、地域住民と一緒に合同の避難訓練を実施することもできていた。コロナ禍の収束後には、地域住民や家族に避難訓練の参加を呼びかけて、合同訓練の実施を再開したり、集合形式の運営推進会議等を活用して、災害などをテーマに話し合ったりするなど、より地域との協力支援体制の強化も求められる。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	年に2回、日中と夜間を想定した訓練を行っている。	/	/	/	
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	定期的に行っている。	/	/	/	
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	×	コロナ感染対策の為、地域住民の方と話し合う機会も合同訓練も行っていない。	○	△	○	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	コロナ感染防止の為、地域を含めた災害対策の取り組みが行われておらず、火災を想定した施設内のみの火災訓練ですら消防職員の参加が得られていない。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	出来ていないが、今後、取り組む必要がある。	/	/	/	事業所では、入所相談を含めて、地域の高齢者等から相談が寄せられた場合には、管理者等が快く対応をしている。コロナ禍において、ボランティアの受け入れなどの協力は行っていない。コロナ禍において、市行政や地域包括支援センター等が主催する会議や研修に参加する機会は減少しているものの、法人内の他のグループホーム等と協力をしながら、連携を図ることはできている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	コロナ禍でもあり本年は、主に電話での相談支援を行っている。	/	/	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	本年は、コロナ感染防止の観点から、事業所を開放、活用していない。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	本年は、コロナ感染防止の観点から受け入れはしていない。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	×	地域活動に協働しながら行っているように努力していきたい。	/	/	○	